



まるごと博物館を

歩く(5)

前回は広教寺まで歩きました。今月は船形春日神社から三ツ峠まで歩いてみたいと思います。

①スタート・船形春日神社

農協宝支所の前を左折し、橋を渡った角を右に進むと、この船形春日神社があります。

江戸時代後期から昭和の初めごろまで、大幡には「大幡歌舞伎」と呼ばれた伝統行事がありました。その舞台となっていたのがこの船形春日神社です。かつて本殿前の舞殿にはまわり舞台が設置されており、歌舞伎が盛んであった当時は大勢の人々で賑わいました。

また、この神社には「衣更えの神事」が行われていたと伝えられており、これは本殿の床下にある、日本武尊が座ったという石に巻かれていた白い布を六十年に一度取り替えるという神事でした。残念ながら、現在ではもう行われていないようです。

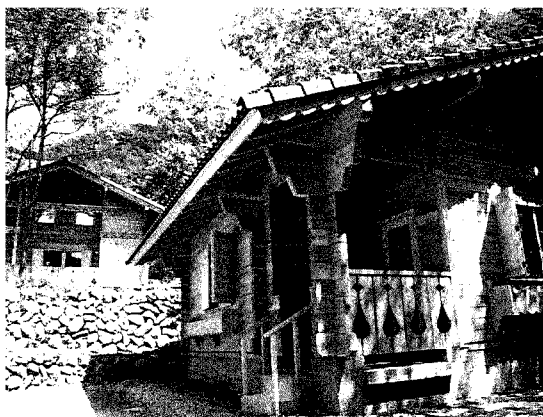
②安田家

安田家は、江戸時代末期に建てられた大きな民家で、母屋の大戸の横木には、年代を記す「文化九年（一八二二）七月」の制札が掲げられています。

この家の庭に植えられているナ

シは、アオナシにサビナシを接ぎ木された珍しいもので、一株に二種類の実をつけるという貴重なものです。これは、昭和三十五年に県の天然記念物に指定されています。

また、家の裏手には梅の木があり、一つの花に八つもの実を結ぶというところで植物学上非常に珍しく、「八房の梅」として市の天然記念物に指定されています。



宝の山ふれあいの里コテージ

③機神社

郡内地方は古くから絹織物の産地として知られ、盛んに機織りが行われていました。この神社は、「機織りの神」として信仰され、昔は機織りの上達を願って遠方からの参拝客で大変賑わったと言われます。

しかし、現在は、機械の導入が進んだことや、機織り自体が少なくなっているため、お参りする人も少ないです。

くなつてしまいました。

④宝の山ふれあいの里

高畑の裏山には、かつて良質の鉱脈が採掘できたということで、戦前は「三菱のドル箱」と呼ばれた宝鉱山がありました。そして、現在その山のふもとにある施設が、この「宝の山ふれあいの里」です。ここには、動植物を観察・学習するためのネイチャーセンターや宿泊できるロッジなどがあり、市民をはじめ東京方面からも多くの利用者が訪れています。また、西側に設置されているグリーンロッジでも、宿泊、キャンプファイヤーなどができるようになっており、自然を満喫できる格好の施設と言えるでしょう。

⑤三ツ峠

グリーンロッジからさらに進むと、三ツ峠登山口があります。山頂にいたる途中には「千段の滝」と呼ばれる滝があり、景勝地として写真愛好家たちの絶好のポイントとなっています。

さて、今月までは宝地区を歩きました。ぜひ皆さんもこれを参考に歩いてみてください。また、現在教育委員会では、市内を楽しくながら歩く「ウォーキングマップ」の作成を計画しています。そこで、みなさんの散歩コースを募集して、マップのモデルコースとして活用させていただきたいと思っています。ぜひ、ご応募ください。

問合・応募先

生涯学習課 文化振興担当

ネイチャーセンター ガイド(6)

1階展示フロア

昆虫展「むし、あつい夏」開催

期 間 8月1日～9月27日

虫が好きな人、きれいな人、みんな集まれ!!

ふれあいの里のフィールドには、たくさんの虫たちがくらしているよ。

- ・スケッチコーナー
- ・虫たちのふしぎはっけんコーナー
- ・ヤゴの羽化コーナー

展示内容は盛りだくさんだよ。学芸員のお兄さんと野山であそび、いろんなお話をしてみよう。



7月上旬ごろには、梅雨明けしたのではないかと思います。しかし、中旬過ぎからぐずついた天気に戻るとは誰もが予測しなかったことでしょう。

一番びっくりしたのは、もしかしたら夏の風物詩、土の中で7年、地上で一週間しか生きられないセミの仲間かもしれませんね!!

フィールドでは

生懸命の池では、ギンヤンマ(トンボ)の羽化が5月からはじまり、7月からは産卵がはじまりました。みずの中からあがってきて、ヤゴからトンボに羽化するところを観察することができます。

そのほか、イトトンボやシオカラトンボが池にきています。

ヤマアカガエルもようやく、オタマジャクシに足ができました。

問合先 ネイチャーセンター
☎(45)6222

